

1 「本質的な問い」による単元構想について

○ 本単元は、3年間を見通した「防災学習」として設定したものである。他教科の学習（保健体育科の心肺蘇生法等）や、はじめての取組となった明德中学校区保小中合同避難訓練等と単元を関連付けながら学習を展開することで、生徒たちは防災を自分事と捉え、「自分ができること」という視点で、自ら設定した課題を意欲的に解決しようとする姿が見られた。「本質的な問い」に対し、本単元を通して地域への関わり方について考えを深めることができた。

2 単元で育成を目指す資質・能力について

アンケート項目	事前	事後
「自分の命は自分で守る」という防災の基本を理解している。	100%	100%
地域や社会をよくするために、何をすべきか考えることがある。	82%	100%
災害から、自分を守るために何か備えをしている。	36%	67%

防災についてのアンケートに対する生徒の肯定的回答割合

【知識・技能】

○ 災害時に必要な物品・行動を、ICT機器を活用しながら調べ、実際に自ら製作・体験することで、それが必要である根拠や効果を理解しながら学び、実践に繋がる知識・技能とすることができた。

【思考・判断・表現】

○ 生徒一人一人が選択した課題であったため、各自が発表の目的に合わせて必要な情報を収集・整理することができた。また、発表方法を限定しなかったことで、各自が工夫したオリジナリティ溢れる表現ができた。発表に際して、ICT機器を活用し、聞く人に伝わりやすい表現になるよう工夫することができた。

● 当初は合同避難訓練時に学習発表をする予定だったが、時期的に難しく、学級内での発表となってしまったので、1月20日に2・3年生が発表を見学するという機会を設定した。今後の展望として、地域の方に聞いてもらうなど、生徒により「地域」を意識した学習や発表にしていく工夫がいる。

【主体的に学習に取り組む態度】

○ 楽しみながら学べる防災ゲームを教材としたり、他教科の学習や避難訓練等と関連付けたりしながら学習を展開したことで、生徒たちは意識を高めながら、災害を自分事として捉え、課題解決に取り組んでいた。また、発表リハーサルでアドバイスを述べ合い、発表を改善する姿が見られ、協働的な学習を行うことができた。



生徒が作った段ボールイスと新聞クッション

応急処置の仕方を学んだので、災害が起きていざとなった時には行動したいと思いました。

学習後の生徒の感想1

私は、この学習を通して少しでも早く自分の命が守れるように、これからは自分で災害時の避難対策をしていきたいです。

学習後の生徒の感想2

「○○のヤツ」とか曖昧な言葉ではなく、明確な言葉を使って発表したいと思いました。

発表リハーでの生徒の振り返り

3 「デジタル機器」の活用

○ 調査や発表に当たって、タブレットを活用した。特に、発表の際は参観者を意識して「分かりやすい発表」になるよう指示したことで、生徒は発表内容に合わせてスライドや動画を使い分ける等、タブレットを効果的に活用することができた。発表のリハーサルでは、ロイロノートを使って、参観者のメモ（PMIチャート）を交流し、発表の準備等の時間を確保するとともに、個々への発表改善のアドバイスにも活用した。

● 発表後に質問時間を設定したり、直接アドバイスする等、生徒同士が直に言葉を交わす場面もあってもいいのではとの意見もあり、デジタル機器の活用場面を考える必要がある。

PMIチャート グループ ( ) ( ) ( )

Plus プラス+ 良い点	Minus マイナス- アドバイス	Interesting インタレストイング 面白い
目的や理由などと言った良い リストを使った良い リストの作りやすさなど良い 言葉も良い	わかりやすく説明したい 声もよく聞かせたい	リスナーと視線を合わせたい

別紙様式